



財団ニュースレター

第18号

2010年6月

発行：公益財団法人スペイン舞踊振興MARUWA財団 〒164-0001 東京都中野区中野3-46-13-402

TEL：03-5328-1852 FAX：03-5328-1853 URL：www.mwf.or.jp E-mail：info@mwf.or.jp

* 公益財団法人に認定されました *

2008年12月よりスタートした公益法人制度改革に伴い、当財団も新制度への移行手続きを進めてまいりましたが、この度「公益財団法人」としての認可が下り、2010年4月1日より「公益財団法人スペイン舞踊振興 MARUWA 財団」へと名称変更いたしました。

今回の改革では、制度施行から5年以内に「一般財団法人」か「公益財団法人」のどちらかに移行しなければならなかったのですが、今回、より厳しい基準を有する「公益財団法人」に認定されたことにより、今後は当財団へのご寄付に関しても、税法上の特例措置の対象となり、寄付金控除が受けられるようになります。寄付金の額（所得の40%が上限）から5,000円を引いた金額が、所得から控除されるようになりますので、これを機会により一層のご支援をいただければ幸いです。

この新たなスタートに際し、より有益となる事業を展開してまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

第5回ビエンナーレ・フラメンコ・フェスティバル終了

2010年2月11日（木・祝）に開催された第5回ビエンナーレ・フラメンコ・フェスティバルについて、ご報告させていただきます。

●節目を飾るにふさわしい華やかな舞台

前回に引き続き、東京・池袋の東京芸術劇場・中ホールで開催された、第5回ビエンナーレ・フラメンコ・フェスティバル。冷たい雨が降りしきる、あいにくの天候にもかかわらず、大変多くの方々にご来場いただきました。

今回は、第5回 CAF フラメンコ・コンクールのファイナリスト11名（高木亮太、水野恵、石川慶子、漆畑志乃、大塚歩、小川愛、神谷真弓、谷淑江、知念響、春山奈保、正木清香、敬称略、以下同）に、前回スペイン留学中のため参加できなかった、第4回コンクール奨励賞の長瀬友美を加えた、総勢12名が参加。スペイン人ゲストには、前回のビエンナーレでも好評を博したハビエル・サンチェスと、セビージャ出身の注目の若手舞踊家、ホセ・マヌエル・ベルナルを招聘いたしました。

舞台は、華麗なバタ・デ・コーラの衣装によるアレグリアスで幕を開け、男性舞踊手3名のマルティネテから、各ファイナリストの“個”に重点を置いたクアドロ・エスペクタクルへと、流れるように展開。入賞者によるソロのほか、ファイナリストが3名ずつ次々と登場するクアドロの舞台構成はかなり見ごたえがあったようで、来場者の方々からの評判も上々でした。

その後、スペイン人舞踊手によるソレア・ボル・ブレリアを挟み、演目のラストを飾ったのは、女性陣が粋な帽子づかいで楽しげに舞うガロティン。今回、オープニングのアレグリアスと、ラストのこのガロティンは、昨夏に東京と名古屋で開催されたフラメンコ・ワークショップでトゥリニ氏に振付けていただいた内容を基に構成しましたので、その華やかさもさることながら、ワークショップにご参加いただいた方々には、いつも以上に舞台に親近感を感



楽しげな雰囲気で見目の最後を飾ったガロティン。

じていただけたようでございます。

また、すべての演目が終了した後、出演者全員で繰り広げられたフィナーレのブレリアでは、カンタオーラのナタリア・マリンとスペイン人舞踊手達との絡みが会場をひときわ沸かせ、最後まで興奮冷めやらぬ、熱い舞台となりました。

終了後のアンケートによると、今回はいつも以上に初めてご来場いただいた方が多かったようですが、「期待していた以上に良かった」、「または是非来たい」といったうれしいご感想を多々いただきました。私どもも、いろいろな意味で、第5回目の節目を飾る良い舞台になったのではないかと感じております。

●第6回コンクールの募集もいよいよ開始

さて、次のビエンナーレ・フラメンコ・フェスティバルへの出演権が得られる、第6回 CAF フラメンコ・コンクールの応募受付が、9月からいよいよ始まります。

過去5回のコンクールでは、東京のほか、大阪や名古屋で地方予選を開催してきましたが、毎回、地方会場への応募が少なく、東京会場との人数の差が2倍以上にも及ぶ状態が続いた為、今回より地方予選は廃止し、東京のみで2日間に分けて行うことになりました。

その代わり、東京から100km以上離れた地方在住の参加者には、財団規定の範囲内で交通費実費補助(100km～200kmまでは1万円、200km～300kmまでは2万円、300km以上は3万円まで)を行うこととなりましたので、地方にお住まいの方は、是非ご活用ください。

コンクールの日程は、予選が1月29日(土)と30日(日)、本選が2月26日(土)となります。なお、東京の会場も、新宿文化センターから北千住の Theatre1010へと変更になりましたのでご注意ください。

募集要項は右に記すとおりです。参加ご希望の方はお早めにお申し込みくださいますよう、お願い申し上げます。



ナタリアを中心としたスペイン人ゲスト達のブレリアは、終演後も話題をよんだ。

第6回 CAF フラメンコ・コンクール募集要項

■日時 予選 2011年1月29日(土) 13:30～
2011年1月30日(日) 13:30～
本選 2011年2月26日(土) 15:00～

■会場 東京 北千住 Theatre1010

■応募資格 スペインでフラメンコ研修を希望の
35歳以下の方(2011年3月31日現在)
※過去優勝者は参加不可です。

■応募受付期間 2010年9月1日～9月30日(必着)

■参加費 2万円
※参加料は振込とします。
必ず参加者の氏名でお振込下さい。

■問合せ先 公益財団法人スペイン舞踊振興 MARUWA 財団
Tel. 03-5328-1852 E-mail info@mwfor.jp
URL <http://www.mwfor.jp/>

スペイン研修報告

第5回 CAF フラメンコ・コンクールで準優勝し、スペインで研修を重ねている萩原淳子さんより、レポートが届きました。



萩原 淳子

濃密な6ヶ月だった。ラファエル・エステベスやアデラ・カンパージョに師事する傍ら、新しい作品(シギリージャ、タラント、バタ・デ・コーラのアレグリアス)を創り、ペーニャ等での自身のソロ6公演にて発表した。また、小松原庸子スペイン舞踊団マドリッド公演とハビエル・ラトーレのクラスにて群舞としての踊り方を実践的に学んだ。特にラトーレのクラスでは、彼の群舞創作から舞台発表までの過程を学ぶことにより、群舞の意義と重要性を再発見できた。そしてさらなる衝撃はエバ・ジェルバブエナのセミナーだった。何かを掴めたようで暗闇に放り出されたような…。未だにそれが何なのか分からない。それほど深淵なことをエバは教えてく

れたのだろう。時間をかけて私はこの問題と対峙するつもりだ。

来週セビージャに戻り、今後のスペイン公演やコンクール出場に向けて準備を始める。今回の研修で学んだことを糧とし、自分を成長させたい。

平成21年度 助成作品 報告

平成21年度の助成作品を上演された、河内さおりさん、森田志保さん、入交恒子さんより、公演のご感想をいただきましたのでご紹介させていただきます。なお、嬉しいことに、今回、森田志保さんの助成作品「はな6」が、芸術祭「優秀賞」を受賞しました！

河内さおりフラメンコ・リサイタル2009 「舞志道-2」

河内 さおり

2009年10月16日、第2回目のリサイタルを開催致しました。今回は演出家独自の見解による“7拍”を1コンパスとする“生と死のリズム”をモチーフに、フラメンコの曲目を展開致しました。1部では「①23①2①0」と無に向かう死のリズム、2部では「0①①2①23」と無から始まる生のリズム。両者は決して対極にあるのではなく、同じ“無”の原点を持ち一体となる概念です。カンテの巨匠エンリケ、ヘレスのサボルを歌うファニジョロ、鬼才舞踊手ルイスと繊細な舞踊手ハビエル、彼らとの練習を通じ、フラメンコの真髄に触れ、感じ、学んだ日々はかけがえのない財産となりました。ますますフラメンコに魅了されていきます。自身の未熟さ、反省は無数にありましたが、演出、照明等の効果もあり美しい貴重な舞台となりました。貴財団よりのご支援を心より感謝致します。



(撮影者：豊住 登)



(撮影者：大森 有起)

「はな6」

森田 志保

私のように全くの個人で公演を行う者にとって、フラメンコの公演活動に理解を持ち、助成をして頂けるというのは、本当にありがたいことと心から感謝しております。

今回の「はな6」では、舞台上で共演者達と交歓し合えたその瞬間の喜び、そして、今までになかった感覚の発露等、自分にとって得難い素晴らしい発見や体験が数多くありました。「はな」は、自分の内側にテーマを求めて作っている作品なので、共演者、スタッフの方々は初めは戸惑いながらも、この私の個人的なアイデアを理解しようと歩み寄ってくれ、それを想像以上の素晴らしいものにしてくれました。

この「はな6」が実現できたことを大きな喜びを持って、マルワ財団及び大勢の方々に感謝し、新たな気持ちでその先に向かって進んで行きたいと思っております。

「CONCIERTO FLAMENCO Vol.11」

入交 恒子

前回10回目を終えた時点からしばらくは、この次の公演に果たして新たなアイデアが湧くのかどうか大きな疑問でした。2年間の間に色々見聞きたり、人との出会いを経るうち、今回の作品に向かうことが自然と出来ました。私の思い描く世界にピッタリあてはまるアーティスト達に出会えたことは何よりの幸運でした。特にバイラールのミゲル・アンヘル・エレディアは、長年探していてもなかなか出会えなかったパートナーでした。彼のアルテだけでなく人間性にも共感できた事が、何より大きな作品創りの鍵となったように思います。ご覧頂いた方々にも息がピッタリ合い好相性だったと沢山の方から言われました。二人で踊る時も、それぞれのソロの時もそれぞれが持つカラーが保たれ、相乗効果となり得たようです。公演全体としては、全メンバーに異常なほどの集中力が最初から最後まで感じられ、隙のなさが気持ちよい舞台でした。

自分の踊りのレベルとスペイン人との間で悩む事は毎回変わらずありますが、この高い集中力は、きっと観客の方々に対して強いパワーを発揮した事だと思います。11回目にして初めて成功だったかなと思える舞台でした。色々な苦勞をしながら続けてきたアーティスト達との関係に改めて感謝をした次第です。



(撮影者：中尾 務)

平成22年度 助成作品 決定

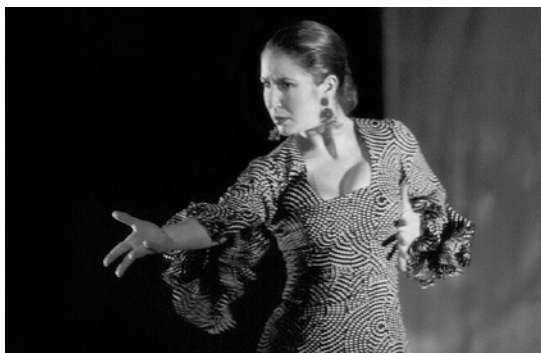
応募者名・作品名	助成金額	公演予定日	問合せ先
平富恵 スペイン舞踊研究所 平富恵スペイン舞踊公演 El Sueño II	130万円	'10年11月9日 於草月ホール	03-5356-6876
NS フラメンコ企画 第1回 東北フラメンコフェスティバル2010 in 仙台	80万円	'10年7月11日 於東京エレクトロンホール 宮城	080-1193-0006
estudio CUNA 影山奈緒子フラメンコ・ソロ・リサイタル “Aquí, estoy yo.” ～ココ（心）ニキタカラココ（此处）ニイル～	50万円	'10年7月30日 於野方区民ホール	070-6662-8790
望月美奈子フラメンコスタジオ 望月美奈子フラメンコリサイタル2010 「輝く瞬間（とき）、感じるままに」（仮題）	40万円	'10年7月19日 於県民共済みらいホール （神奈川）	045-863-0072

フラメンコ・ワークショップ in 名古屋 開講のお知らせ

毎年、好評を博しているフラメンコ・ワークショップ in 名古屋が今夏も開講されます。

今回、講師をお願いしたのは、セビージャ出身の舞踊家、マリア・デル・マル・ベルランガ氏。13歳でプロデビュー後、21歳でコルドバのコンクールで優勝し、その後、後進の指導にも力を注ぎながら、来日公演を含む数々の舞台で活躍し続けている、人気の踊り手です。振付の曲目は昼クラス（上級）がソレア、夜クラス（中級）がタンゴ・デ・マラガを予定しておりますが、都合により変更となる可能性もありますので、その際はご了承ください。

募集要項は以下のとおりです。例年、定員を上回るお申し込みがありますので、参加ご希望の方はお早めにお申し込みくださいますよう、お願い申し上げます。



今回、講師を務めるマリア・デル・マル・ベルランガ氏。その細やかで丁寧な指導には定評がある。

■日程 2010年8月3日(火)～8日(日)

昼クラス 13:00～15:00（平日）

12:00～14:00（土日）

夜クラス 18:30～20:30（平日）

17:00～19:00（土日）

■場所 名古屋「マルワスタジオ」

■参加料 6日間 32,000円（定員各クラス20名）

■予定講師 マリア・デル・マル・ベルランガ

■問合せ

公益財団法人スペイン舞踊振興 MARUWA 財団

Tel. 03-5328-1852 info@mwfor.jp

事務局便り

早いもので来年は当財団の10周年の年になります。22年度の助成作品も決まり、昨年まで延べ30作品に対して助成が行われました。厳しき経済情勢の中で芸術活動をしている皆様の為に、少しでもお役に立てるよう、今後も助成事業を続けてまいります。

又、コンクール入賞者の海外派遣の人数も延べ18名にのびました。特に奨励賞を受賞し、留学された方々の中には、初の渡西でスペイン語が殆ど分からない方もいらっしゃいました。しかし、およそ10ヶ月のスペイン滞在で、フラメンコに対する技量、見

識は勿論のこと、生活習慣、考え方も吸収し、精神的にも大きく成長して戻ってきています。さて、来年のコンクールではどんな個性のある方が、極度の緊張の場を乗り切って現地に飛べるか、今から楽しみです。（広瀬）